

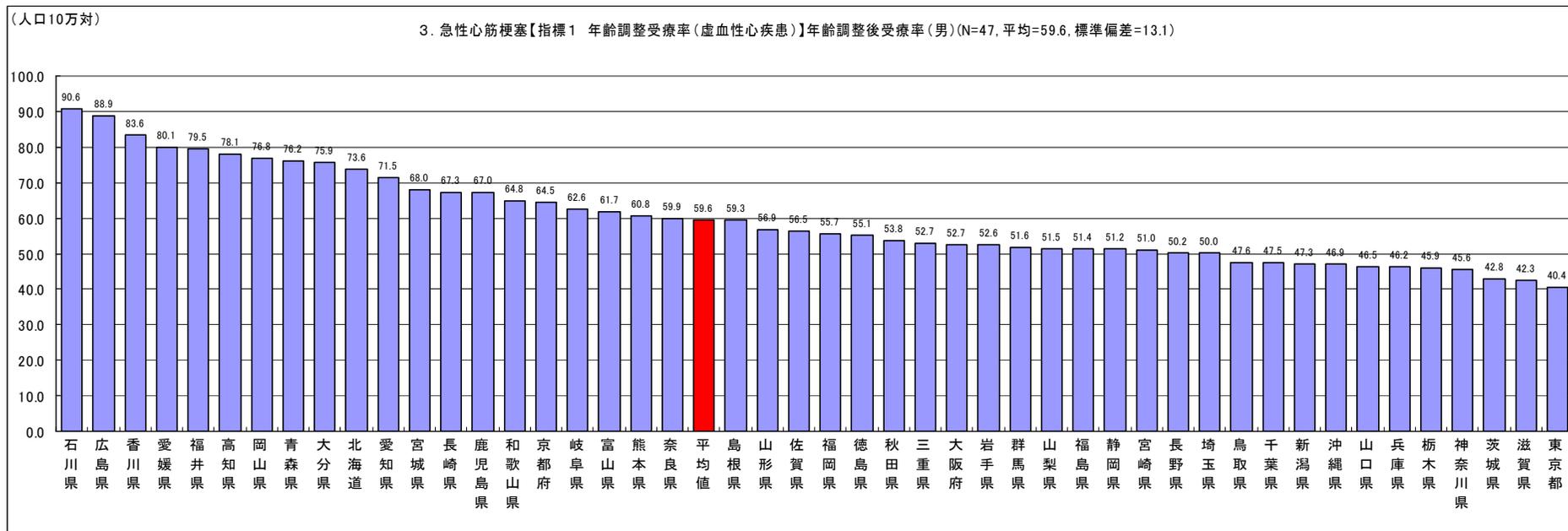
(1) 「指標」の概要

指標番号	指標名	指標の概要
1	年齢調整受療率（虚血性心疾患）	<p>急性心筋梗塞の患者が「どのくらい多いか」を見るための指標です。</p> <p>どのくらい多いかを直接的に示す「罹患率」を全国一律に把握することが困難であるため、ここでは代替的に「虚血性心疾患の受療率」を把握しています。</p> <p>なお、受療率は年齢構成による影響を受けるため、都道府県比較に適するように年齢調整を行います。</p> <p>今回の調査では、データ収集上の制約もあり、共通に把握すべき必要最小限の指標として虚血性心疾患の受療率を把握するものとしています。ただし、都道府県の医療計画策定において、急性心筋梗塞単独の値など追加の指標を把握することを制約するものではありません。</p>
2	基本健診受診率【脳血管疾患2と同じ】	<p>急性心筋梗塞の予防に「どのくらい関心があるか」を見るための指標です。</p> <p>あいにく、がん検診のような「急性心筋梗塞の検診」を把握できる既存の指標が存在しないため、現在は検診率を把握することはできません。</p> <p>しかし、急性心筋梗塞予防のためには、高血圧や高脂血症、動脈硬化に注意するなど生活習慣病予防対策が重要となります。よって、ここでは、脳卒中予防への関心の高さを反映する指標として、基本健診の受診率を把握します。</p> <p>多くの人が基本健診を受診することが望ましいので、本指標は高いことが望ましい指標です。</p> <p>健康増進計画、医療費適正化計画とも整合を図る必要があるため、将来的には健康増進計画で用いる指標に置き換える予定です。</p>
3	年齢調整受療率（高血圧）【脳血管疾患3と同じ】	<p>ハイリスク群の減少率を直接的に把握することが困難なため、代替として心筋梗塞にならないためにどれくらい気をつけているかを反映した指標として、外来の「年齢調整受療率（高血圧）」を把握しています。</p> <p>日常的に生活習慣の改善に取り組み、健康に留意していることは、単に高血圧や高脂血症等の生活習慣病予防、重症化予防にとどまらず、それらが進行して引き起こされる脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病などの疾病予防にもつながるといえます。</p> <p>「高血圧症の外来診療を受けることが高血圧の重症化予防につながる」という考え方を反映したものです。</p>
4	医療機能情報公開率【がん5と同じ】	<p>「どこに行ったらよいか」を見るための指標です。</p> <p>病気になったときにどの病院を受診したらよいか分かるように、医療機関の情報が誰でもすぐに入手できることが求められます。ここでは、医療機関情報提供の度合いを反映した指標として、都道府県や医師会等の職能団体によってインターネット上で情報が公開されている医療機関の割合を把握します。</p> <p>本指標は高いことが望ましい指標です。</p>
5	心大血管リハビリテーション料届出医療機関割合	<p>「適切なリハビリが受けられるのか」を見るための指標です。</p> <p>患者が在宅復帰するためには適切にリハビリテーションが行われる必要があります。よって、ここでは、心疾患を原疾患とするリハビリをどのくらいの施設で実施できるかについて把握します。</p>
6	退院患者平均在院日数	<p>「どのくらいで日常生活に戻れるのか」を見るための指標としては、総治療期間を把握することが望ましいのですが、代替的に入院期間を反映した指標として、虚血性心疾患の患者の平均的な入院期間（日数）を把握します。</p> <p>地域の医療・介護資源の状況によっても必要な入院期間は異なることから、本指標を全国で一律に比較することは困難ですが、近隣の地域間での比較あるいは経時的変化を見ることで、地域の医療の状況を評価する材料になりえると考えられます。</p> <p>今回の調査では、データ収集上の制約もあり、共通に把握する必要最小限の指標として虚血性心疾患の退院患者平均在院日数を把握することとしています。ただし、都道府県の医療計画策定において、急性心筋梗塞単独の値など追加の指標を把握することを制約するものではありません。</p>

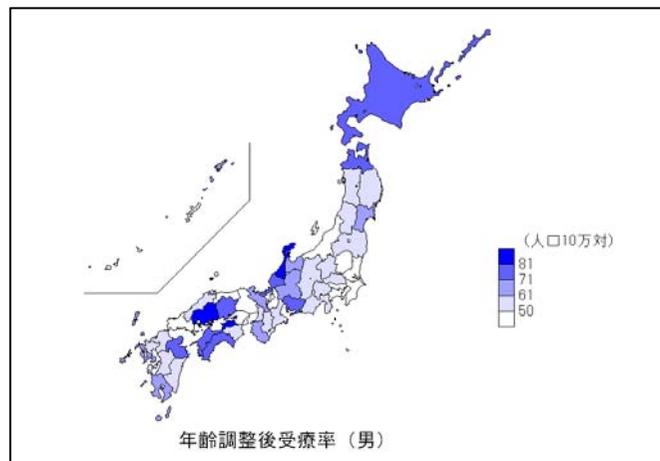
指標 番号	指標名	指標の概要
7	年齢調整死亡率	<p>「どのくらい亡くなるのか」を見るための指標です。</p> <p>ここでは、急性心筋梗塞で亡くなる方の人数を反映した指標として、「死亡率」を把握します。</p> <p>なお、死亡率は年齢構成による影響を受けるため、都道府県比較に適するように年齢調整を行います。</p>

(2) 「指標」の結果一覧

・ 急性心筋梗塞-1 年齢調整受療率



55



- ・ 「どのくらい多いか」を見るための指標として用いています。
- ・ 石川県が最も高く、東京都が最も低い結果です。平均値は59.6、標準偏差は13.1です。
- ・ 地域的な傾向は特に見られません。